| 講義名 | 対1)現代ビジネス | | | | | 授業形態 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 上田　義朗 | 開講期・曜日・時限 | 前期 金曜日 ３時限 | | | | |
| | | 単位数 | 2 | 履修開始年次 | ２年生 | ナンバリング | |

## 主題と概要

世界また日本における現在進行中のビジネスの実態や課題について具体的に学びます。
そのために具体的な事例として新聞や雑誌の記事を配布します。

その具体的な記事を検討するための分析視角また理論的な見地として、教科書に掲載された合計５０のビジネス理論を活用します。

具体的な事例を理論的に考え、その事例の背景や問題点を抽出し、今後の展望を推論する。これらを通してビジネス感覚を養成します。

なお、本講義は予習をしっかりして、対面講義では対話や議論（＝意見交換）をしっかりする。ダブルで「しっかり」した講義を理想としています。オンライン講義と対面講義の「ハイブリッド講義」を実施します。

## 到達目標

１．世界や日本のビジネス記事の内容を理解し、それについて何らかの論評ができるようになります。

２．教科書を通して経営学の理論を広く浅く学ぶことができます。

３．企業経営の課題・問題点の抽出とその解決策を検討できるようになります。

## 提出課題

レポートを何度か提出してもらいます。

レポートにはレスポンを含みます。

## 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

講義中にレスポンやレポートについて紹介・解説・議論します。

レポート内容の口頭発表や、その議論に参加した学生に得点を与えます。

## 評価の基準

レポートと発言・レスポンを総合的に評価します。期末の定期試験は実施しません。

積極的な講義参加を評価の重点とします。したがって評価では講義中の発言が重視されます。

なお、講義中に発言できない学生は、メールで意見を述べてもらうことで発言と同等とみなします。

## 履修にあたっての注意・助言他

対面講義では、間違っても良いので積極的に発言して下さい。それが評価の点数になります。

そのためには教科書を予習として講義前に読みましょう。

たとえばユニクロ、ＱＢハウス、スターバックス、大塚家具など新聞や雑誌に登場する企業を事例とするほかに、業界分析や時事問題を取り上げます。ビジネス雑誌では『日経ビジネス』を活用します。

教科書を１冊全部を読むことを予定しています。そのつもりで受講して下さい。

## 教科書

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| .世界のエリートが学んでいるＭＢＡ必読書５０冊を１冊にまとめてみた. | 永井孝尚 | ＫＡＤＯＫＡＷＡ | 1848 | 9784046040534 |
| | | | | |

## 参考図書

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| .世界標準の経営理論. | 入山章栄 | ダイヤモンド社 | 2900 | 9784478109571 |
| | | | | |
| | | | | |

## その他

主要新聞を始め『日経ビジネス』、『東洋経済』、『週刊ダイヤモンド』、『エコノミスト』等の記事を配布します。そのほか経営学の関連資料を配付します。

参考文献については、適時指示します。

前回の講義は、マクドナルドの創業者レイ=クロックの映画を見てレポートを書いてもらいました。
教科書［４１］「成功はゴミ箱の中に」が原作です。今回の講義では未定です。
参照　http://thefounder.jp/

## 授業計画

教科書の順番に講義をします。それを基本に時事問題を応用として考えます。教科書の順番を重視するか、その時々の最新ニュースを重視するか。それによって講義の内容が変化します。とりあえず、柔軟に対応するということで、以下のように簡単に講義概要を示します。

教科書の概要［　］はビジネス書の番号です。

第１章　戦略・・・・・・・・・・・・・・・・・・［１］～［１０］
第２章　顧客とイノベーション・・・・［１１］～［１６］
第３章　起業と新規事業・・・・・・・［１７］～［２６］
第４章　マーケティング・・・・・・・・［２７］～［３１］
第５章　リーダーシップと組織・・・・［３２］～［４２］
第６章　人・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・［４３］～［５０］

具体的な講義は臨機応変に柔軟です。

１．教科書の内容説明と具体事例と議論：［１］～［３］・・・講義の概要
２．同上：［４］～［６］
３．同上：［７］～［１０］
４．同上：［１１］～［１３］
５．同上：［１４］～［１６］
６．同上：［１７］～［１９］
７．同上：［２０］～［２２］
８．同上：［２３］～［２６］
９．同上：［２７］～［２９］
10．同上：［３０］～［３２］
11．同上：［３３］～［３６］
12．同上：［３７］～［４０］
13．同上：［４１］～［４４］
14．同上：［４５］～［４７］
15．同上：［４８］～［５０］・・・講義全体の総括

## 授業形態（アクティブ・ラーニング）

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ア：PBL（課題解決型学習） | ○ | イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| ○ | ウ：ディスカッション、ディベート | | エ：グループワーク |
| | オ：プレゼンテーション | | カ：実習、フィールドワーク |
| | キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） | | |

## 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：教科書を事前に読む。１８０分～。
事前に教科書や資料を読んでもらいます。その予習内容を対面講義で発表。また関連資料を参考にして質問に対する回答。これらに得点を与えます。

復習：講義中に前回の講義内容について口頭で確認の質問をします。教科書にアンダーラーンを引いたり、書き込みをしたりする。もちろんノートを作成もよい。その時に考えたコメントやビジネスアイデアを書くことも勧めます。６０分～

## 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

卒業認定・学位授与の方針に基づく人材として、特に「（2）知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の養成に貢献する。

上記の人材育成には、理論と具体的事例の双方向の連結を考える日々の訓練が必要である。本講義は、その体験の場所となることが理想である。

## 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

すでに説明しているように、受講生にとっては教科書の予習が要求される。その努力を講義中の発言やレスポンやメールで発信・発散してほしい。そういう講義です。

受講生は講義中にＳＮＳを使用して、専門用語や具体的な事例またYouTubeを閲覧して、それについて発表してもらいます。これについて得点を与えます。

## 実務経験の有無及び活用

実務経験あり。
１．株式投資ファンドの組成（岩井コスモ証券、販売終了）
２．海外進出のコンサルティング（現職：日本ベトナム経済交流センター副理事長）
３．複数業種の国際的なビジネスマッチング（現職：ネパールＨＲＤＩＣ社顧問、合同会社ＴＥＴ）
４．映画『ベトナムの風に吹かれて』（主演：松坂慶子、監督：大森一樹）製作（製作委員会・エグゼクティブ・プロデューサー）
・・・研究上の論理的な整合性（＝理論）と、実務上の非論理的・情緒的な現実（＝実践）の「乖離」と「統合」について、私の具体的な経験と知見は、受講生の指導に活用できます。

## 備考

質問は講義の最中や前後にして下さい。またメールを歓迎します。
Yoshiaki_Ueda@red.umds.ac.jp